

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200134		
法人名	医療法人社団 川越伊藤医院		
事業所名	グループホーム かわごえ		
所在地	三重郡川越町大字豊田299番地1		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 28 日	評価結果市町提出日	平成26年12月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2472200134-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2472200134-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 11 月 17 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内の医療が直ちに利用でき、医療・看護の管理が充実していること。介護者も経験長く、入居者の介護ランクが徐々に高くなったとしても安心して暮らせるよう支援している。入居者も最少数(5人)であり、常時目の届く範囲で利用者と職員が共に過ごし、持てる力を維持できるように支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富洲原の駅に近い静かな住宅街に位置し、同医療法人の老人保健施設やケアハウス・職員用保育所に囲まれた良い環境に事業所がある。また 同敷地内の川越伊藤医院と建物で繋がっており、理事長の先生が常駐してみえ、毎日利用者の様子を確認でき、緊急時の対応も受けられる状態なので、利用者も家族も職員もとても安心して暮らしている様子が伝わってくる。開設14年目を迎え、5人定員のこじんまりとした利点を生かした温かいほんわかとした家族のような支援が行われている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『穏やかで家庭的な環境の中地域と密着して一人ひとりの尊厳を守りその人らしい笑顔のある明るい生活を目指します』との理念を玄関とリビングに掲示し、やれる事を伸ばし笑顔で暮らせるように共に生活を楽んでいる。	現在の理念は地域密着型になった折、職員で話し合って決めたもので、玄関と寛ぎの場にいつでも目に出来るよう、大きな半紙に書かれて貼られている。ケアプラン作成時にはみんなで復唱するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体の川越伊藤医院として自治会に所属している。ご近所の方が畑で育てたミニトマトやきゅうりを頂いたり、豊田公民館でのふれあいサロンで地域の方と交流している。	利用者の高齢化と身体能力低下が進み、なかなか外出の機会が持たず、地域の方々との付き合いが減ってきているが、月1の地域のふれあいサロンへの参加や、併設保育園の園児たちが遊びに来てくれるのを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場・地域包括・民生委員・区長・老人クラブ会長等出席いただき、前年度の外部評価結果や日常のホーム内の写真を見て頂き現状報告や情報交換している。	運営推進委員会は福祉課・包括支援センター・家族・区長・老人クラブ会長の参加を得て、現状報告や意見交換を行っている。今年も開催が1回にとどまったので、当事業所をより知ってもらうためにも機会を捉えて話し合える時・場を作っていく意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町民保険課から社協ニュースレターを持ってきて頂いたり、隔月の介護保険サービス事業者間会議に出席し情報を得ている。分からないことなどを電話で教えて頂くことも多い。	介護保険サービス事業者間会議に参加して、他のグループホームの方々などからも色々情報を得ている。又、包括支援センター長や他の事業所とも繋がりが出来ており、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をしない介護を行っている。言葉による拘束も拘束であることを常に心に留め、日々楽しく気持ちよく暮らしていただけるよう努めている。	小人数の慣れ親しんだゆえの言葉使いによる「言葉の拘束」にならないよう、常に頭において介護に当たる様に、職員同士で話しあい、気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声かけひとつでも言葉による暴力や虐待になり得ることを話し合い、自分の親にそう言われたらされたらどうかを考えてもらい、一人ひとりの尊厳を守る事に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットで話し合ったり、勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一緒に書類を見ながら丁寧に説明し、都度、不明な点や疑問点をお尋ねし理解を得ている。ご意見などあればいつでも何でもお話くださるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意思表示できる利用者の方には、折に触れここでの暮らしの思いをお伺いしている。ご家族様には来訪の都度、日々のご様子をお伝えしご意見やご要望等を伺っている。	家族には、月1回の利用料支払いや面会などの時を捉えて日頃の状況を伝え、意見・意向を確認している。利用者にも折に触れ、思いを聞き取る様に心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも思ったことを自由に書くノートを作り意見を出してもらっている。毎日の申し送り時や職員会議で話し合っている。	自由ノートに職員が意見や提案を記入して、申し送り時や職員会議で話し合っている。まとめたことを理事である隣接病院の婦長に提案している。	口頭で提案するのではなく、職員で話し合い、グループホームの運営などの年間計画に織り込んだ企画書を作成し、理事から理事長へと上げることにより、職員の意見がより反映されることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔各の事業者間会議に出席し現状や問題点など話し合ったり、他ホームの対応や意見を伺い参考にさせていただくなど取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	先ずご本人の思いをゆっくりと聴くことから始めている。「ええ人で良かった大好きやわ」と言って下さる利用者もあり、日々健やかに過ごしていただきたい思いが一層強くなる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当ホームの関わり方を説明はさせて頂くが、どのような暮らしを望まれておられるのか等ご家族のお気持ちや考え方など何でも話して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	理解できず会話がかみ合わない方には、しぐさや表情で気持ちを汲み取るようにしている。昔話など色々な会話から信頼関係が出来、思いを聞かせていただけるようになってきている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	例え理解出来ないご様子でも常に声かけ、言葉にならない心の思いを汲み取るよう努めている。いつも明るく接することにより笑顔が見られ共に笑っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつまでも明るく健康に過ごして頂きたいという思いは職員もご家族様も同じなので、日々のご様子を来訪時や電話でお伝えしより良い介護を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前居たケアハウスの利用者の方や職員が面会にみえたり、ひ孫さんやご親戚の方などいつでも来て頂けるよう働きかけている。	利用者が出掛ける事を拒み、施設内で過ごすことが増えて来ているので、行きたい所へなるべく家族と共に行けるよう働きかけをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなでボール遊びをすると「いくわよ～」と声かけ合ったり取りやすいよう気遣っているのがよく分かる。「寒くない？」と隣の方に気配りしたり「こうやって食べよ」とジェスチャーで伝えたり微笑ましい場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所されどう過ごされているか気になる場合連絡させていただくこともある。ご家族さんが様子を伝えに来てくださることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れ、ここでの暮らしはいかがですか？やりたい事やしてほしい事はないですか？とお伺いしている。なかなか話して頂けない方には表情やしぐさなどから思いを汲み取るようにしている。無理強いや押し付けにならないよう配慮している。	日常生活の中で利用者にその都度気持ちの確認を取っている。言葉にならない場合は表情やしぐさ・態度などから把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時に細かくお伺いしている。当ホームでの生活の流れや出来ること出来ないことを説明させて頂き、これまでの生活を変えてしまわないよう意向に添えるよう話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に声かけし、ご希望に添えるよう持てる力を維持していけるよう遠慮や無理のないよう、一人ひとりのご様子の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様にご要望をお伺いし、必要な場合は経験豊富な看護師や栄養士・理学療法士に相談し、各職員の意見も合わせて計画作成している。	自由ノートに、日々気が付いたことや家族の意見等も書き留めておき、3か月に1度のプラン見直しの折りに職員全員で話し合い、新しいプランに反映させている。同法人内の看護師や栄養士・理学療法士にも意見を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何でも記入できるノートや各個人カルテに気づくたび記入し、毎日の申し送り時や3か月ごとのケアプラン見直し会議で職員間で忌憚なく意見を出し合い改善している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他のケアマネジャーに意見を聞いたり、系列の施設の行事に参加したり、理学療法士やTVでの他施設の情報を参考にしたりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族やご友人の来訪をお願いし親交を深めたり、豊田公民館のふれあいサロンに参加させて頂き地域のご老人と歌やゲームや軽体操など交流を楽しんだり、系列の老健の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内の法人の医師がかかりつけ医としてほぼ毎日来訪しているので安心できる。体調により内科や皮膚科、整形外科等受診することもある。	入居時はそれぞれのかかりつけ医にかかっていたが、現在は全員が隣接法人の医師に替わったので、毎日様子を確認してもらえるので安心している。他の科の定期受診が必要な利用者は、家族が対応していることが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師が居るうえ、同敷地内に法人の医師・看護師が常駐しているので即時に対応できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族にご様子を伺ったり、退院が近づくと会いに行ったり電話にて担当看護師さんから体調や留意点などを伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご意向を伺っている。重度化に伴い当ホームでの看取りを希望される場合、看取りの指針を説明させて頂き同意のもと併設法人医師、看護師と共同する。	入居時に意向を確認しており、重度化が進んできた場合はかかりつけ医から話をし対応している。医師が隣接病院に常駐しており、その都度対応の指示を貰えるので、今までに半分くらいの利用者を看取ってきた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本院併設のため、急変発生時すぐに上申し対応できる状態でもあり、誤嚥や詰まった場合のタッピング練習や対応手順を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会い指導のもと、防災訓練を年2回行っている。職員会議中などに今地震が来たらどうする？とシミュレーションしたり、運営推進会議時などに民生委員さんや区長さんに協力をお願いしている。	年2回の避難訓練では、隣接医院へいかに早く避難するかを行っている。また同法人の隣接施設への避難も念頭におき、日々職員会議などで色々な場合を想定してシミュレーションを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の思い込みや都合や価値観を押し付けないよう、気付かぬうちに傷つけることのないよう、一人ひとりのこれまでの生き方や気持ちを大切にしている。	小人数ゆえの慣れ合いになってしまわないように、トイレ誘導などは少し場所へ移動してから声掛けをするよう常に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮なく何でも言える雰囲気や信頼関係作りを心がけている。理解出来ずうまく表現出来ない方には、表情や仕草で気持ちを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が希望されるように自由に過ごして頂いている。その日その日の体調やご様子に合わせて、ご本人のペースを大切に一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	納得されるまで時間をかけて洗面・整容される方もある。着脱衣や洗面動作など全く分からない方でも一つひとつ声かけしながら介助し、きれいになったねと伝えると笑顔が見られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を伝え、食前に嚥下体操をしている。調理は委託業者がするが、食べやすく刻んだり配膳を一緒にする。食器拭きは進んでやって頂いている。	食事は法人施設から運んでいる。食事形態も栄養士と相談しながら利用者の意向に沿うようにしている。食後の食器拭きなどをみんなで声掛けあって一緒に行っている。利用者の希望が献立に反映出来るようにしていきたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自らご飯におかずを載せて食される方、こぼしながらも時間をかけて食される方、食べることが全く分からない方など様々だが、体調不良時は栄養士や看護師と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のお茶、朝晩の歯みがき、昼食後の義歯洗浄など声かけ見守りや介助にて口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後やおやつ後にトイレ誘導している。気温や素振りに気を配り見逃すことのないよう注意している。なかなか排尿出来ない方の場合、本院医師に相談し腹圧をかけ排尿を促すこともある。	夜間は全員がオムツを使用している。昼間もオムツ使用の利用者があるので、リハビリパンツに切り替えを勧めてトイレ排泄の自立に向けた支援に繋げていきたいと考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取を心がけ、軽体操や入浴時の温め腹部マッサージ等で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間の設定はあるが、ご本人の気分や体調に合わせて変更している。普段は入浴剤を使用し、菖蒲や柚子湯など季節を感じたり気分良く入浴出来るよう工夫している。	職員二人体制の時間を利用して、月金週2回入浴をしている。拒否される利用者もあるが、入ってしまえば「気持ちいい～」の声が聴ける。現在全員が車いす利用なので、支援が難しくなっている。	足の力が弱くなると自力で立てなくなり、入浴も難しくなると思われるので、1日中車いすではなく、食事時には食卓椅子に必ず座るなど時を捉えて移乗の機会を増やし、足を使う生活の工夫を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に、休みたい時や体調に合わせて横になって頂いている。夜の就寝もご本人の様子に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効や副作用に目を通し、きちんと飲みこまれたか見守っている。日々体調の変化に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の配膳や食器拭きなど出来る方に手伝って頂いている。好きなフルーツや菓子を差し入れてもらい皆でよばれたり、ご家族と居室で談話しながらお茶される方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	手を変え人を変えて誘っても出かけない方もあるが、地区の豊田公民館のふれあいサロンに出かけ参加された地域の方々と音楽やゲーム・軽体操・茶話会などで交流している。お天気の良い日には、ポーチで日向ぼっこを楽しんでいる	同法人施設の行事に参加したり、地域のふれあいサロンに参加したり、近くの公園に出かけたりするよう努めている。外出が難しい時は日当たりのよいポーチに出て、みんなでお茶を飲んだり・日向ぼっこを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の管理はしておらず、今は所持されている利用者の方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年暑中見舞いと年賀状をご家族様に送っている。ヨットの折り紙に色鉛筆で波を描き暑中見舞いの葉書を送った。そろそろ年賀状の絵柄を一緒に考えたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとり体感温度も違うので羽織物や空調で調整している。季節の折り紙や切り紙と一緒にして、壁飾りに窓などに貼ると「ええねあ」「きれいねえ」と楽しんで眺められている。	共用空間においてはレクリエーションが行い易いようにテレビを囲んでソファを置いたり、車椅子の移動にも工夫している。居間の一角にはベットが置かれ、いつでも横になれるようになっている。また壁かざりなどで生活感や季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のリビングでパズルをする人、数字探しをする人、ただ眺めている人、テレビを見ている人など様々だが仲良く過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と一緒に写した思い出の写真やぬいぐるみを飾られたり、長年使っていたタンスやクローゼットや必要な物をもって来られ使いやすいように置いてある。	ゆったりとした部屋で、自宅からそれぞれが筆筒や椅子などを持ち込み、写真やぬいぐるみなどを自分らしく飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来ることが違うので、手を貸しすぎないように待つこと見守ることに徹し、昨日できなかった事が今日は出来たりすると喜びです。		